

# 食品の安全に関する リスクコミュニケーションの あり方について

食品安全委員会  
委員

ほりぐち いつこ  
堀口 逸子



食品安全委員会では、設置された翌2004年と2006年に、リスクコミュニケーションの方針を示しています。そして、2014年5月、リスクコミュニケーションのあり方に関する勉強会が設置され、消費者団体、日本生活協同組合連合会、企業、研究者、メディア等からなるメンバーと関係省庁の担当者の参画を得て、9回にわたり議論を重ねました。そして2015年5月、「食品の安全に関するリスクコミュニケーションのあり方について」をまとめました<sup>1)</sup>。

報告書に記載された特徴は、以下の7点です。

・リスクアナリシスの考え方が普及しておらず、フードチェーンに対する理

解も得られていない現状を踏まえた内容であること。

・リスクコミュニケーションを「関係者間で情報・意見を交換し、その過程で関係者間の相互理解を深め、信頼を構築する活動である」と定義したこと。

・目的は、対話・共考・協働(engagement)の活動であり、合意形成が主目的ではない場合があることを留意しておくべきであるとしたこと。

・リスクコミュニケーションを実施する際は、目的を明確化し、それに対して評価を行うとしたこと(下図)。

・活動は「一定の費用と労力がかかるもの」であり「社会全体で負担すべき」としたこと。

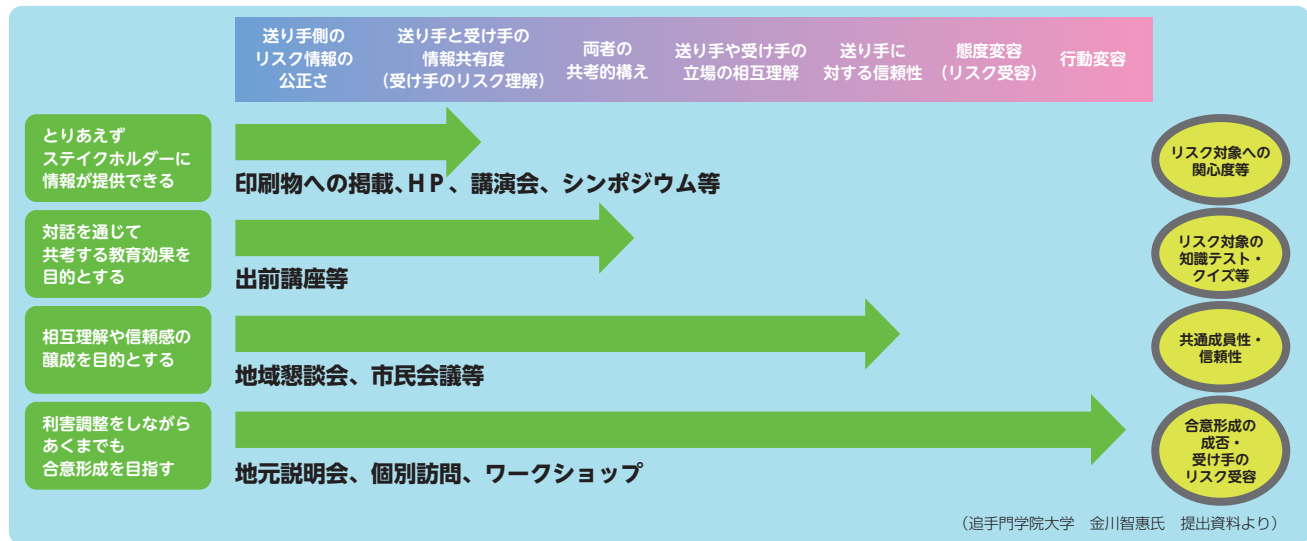
・科学的妥当性を欠く情報への対応と

科学的な基礎知識の普及について言及したこと。

・関係者に期待される姿勢として、各々のステイクホルダー(関係者)について記述していること。

議論の中で、食品安全委員会は、未だ多くの国民に知られていないこと、「信頼できる情報」の入手先であり、唯一のリスク評価機関として、信頼されていなければならないこと等、厳しい指摘を受けました。昨今は、フェイスブック<sup>2)</sup>等も利用し、積極的に情報提供に努めています。今後は、報告書に沿って関係者とともにさらなる実践をしていきます。

図 リスクコミュニケーションのステップ



1) 内閣府食品安全委員会「食品の安全に関するリスクコミュニケーションのあり方について」 [https://www.fsc.go.jp/osirase/pc2\\_ri\\_arikata\\_270527.html](https://www.fsc.go.jp/osirase/pc2_ri_arikata_270527.html)

2) 内閣府食品安全委員会 Facebook <https://www.facebook.com/cao.fscj/>



▼食品の安全性に関する知識・理解を深めていただくために

食の安全ダイヤル 03-6234-1177 受付時間 10:00～17:00 (土・日・祝祭日、年末年始を除く)

[Eメール受付] <https://form.cao.go.jp/shokuhin/opinion-0001.html>



食品安全委員会ホームページ <http://www.fsc.go.jp/>

食品安全委員会 検索



食品安全委員会 e-マガジン登録 <http://www.fsc.go.jp/e-mailmagazine/>

「食の安全ダイヤル」[e-マガジン登録]は、食品安全委員会のホームページからもアクセスできます。



公式Facebook <http://www.fsc.go.jp/sonota/sns/facebook.html>



食品の安全性に関する身近な情報をお伝えしています。

オフィシャルブログ [http://www.fsc.go.jp/official\\_blog.html](http://www.fsc.go.jp/official_blog.html)



食品の安全性に関する情報や  
メールマガジン【読物版】をお伝えしています。